
強肉弱食

キャップ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

強肉弱食

【Nコード】

N2369I

【作者名】

キャップ

【あらすじ】

女の子に縁のない見習いハンターのバイトが
繰り広げる小さいけど壮大(?)なストーリー！
コメディかどうかの判断は任せます！

第一章その一（前書き）

文章力、ネーミングセンスその他もろもろの能力値0なんて
温かい目で見てください。

第一章その一

「古龍」

主にどの種族にも属さないモンスターを総称した呼び名のこと。

ハンター達にとっては目標のような存在である。

これは古龍を追う小さな少年のちっぽけなオハナシ

今、火竜「リオレウス」が小さな少年に体当たろうとしている。

しかし、少年は眉ひとつ動かさず、ただ横に一閃。

リオレウスは断末魔を上げるまもなく崩れ落ちる。

「突っ込んでくるほうが悪い。」

その少年は体格に似合わぬ大きな大剣を軽々とバトンのように回す。

「これじゃあ 古龍も目と鼻の先だな。ハッハッハッハッハ」

「クウオルウアアアア！！！バイトオオオオ！！！！」

頭に、というか脳に激痛が走る。

メチャクチャな回転のチョークがものすごいスピードで

頭のとっぺんにクリーンヒットしたのだ。

「つつつつあああ　　！！！」

痛いなんてレベルではない。

ギアノスクらいなら一撃で気絶するだろう。

しかし、おかげで眠気なんてものは

奈落の底に光の速さで飛んでいった。

夢。そう 夢だった。世の中そんなに甘くはない。

「す、すいませんでしたあー！！教官！！！」

「授業中におねんねたあいい度胸だ！！！！これが続くようなら
おまえがオッサンになっても卒業させてやらんぞ！！！！」

ここはジキニアと呼ばれる中規模の街。

大型の都市になるとハンター育成に力を注いでいる。

そして、バイトに先ほど雷が落ちた場所

そこは訓練場である。

ジキニアの男女は15歳以上になると週に一度

訓練場について授業を受けなければならない。

そして、教官に認められるまで卒業することはできない。

なので本当に少人数だがオッサンもいたりする。

オッサンになってまでここに通うのはバイトは死んでもなりたくない。

もう日も暮れ授業も終わりを告げる。

バイトは、急いで家に帰る。

明日は友達とドスファンゴを狩りに行くのだ。

友達というのは、幼馴染のケイとカイトという少年の二人だ。

男三人で狩りというのは少々むさい気もするが、

あいにく女の子というものには縁がない。

家についたバイトは、そんな男だけのもっさりした

明日に向けいつもより少し早く眠りについた。

第一章その二（後書き）

ありがとう！いろいろと！

第一章その二（前書き）

温かい目で見てください。

第一章その二

翌朝

すがすがしいくらいの曇天だ。

すごい勢いでテンションが下がる。

しかし、狩りに中止なんてものはない。もちろん決行だ。

バイトは街の広場でケイとカイトと合流し、ギルドへ向かった。

「ドスファンゴですか？・・雪山と森丘の二つがありますか？」

どちらにされますか？」

ギルドの受付のお姉さんが微笑む。

バイトはこの笑顔を見るたびに、女の子がいれば・・・。

と心の底から思っただった。

そんな実現しそうなことを考えていると

ケイたちの方で勝手に話が進んでいた。

「俺、雪山がいいな。カイトは？」

とケイ。

「いや、俺も雪山でいいと思うけど。」

「じゃあそつするか。お姉さん。雪やm・・・」

「森丘で!!!!」

バイトの大きなこえでケイとカイトの声はかき消されてしまう。

めでたいことに無理やり森丘に決定した。

「森丘ですね。では、森丘行きの気球にお乗りください。」

お気をつけて。」

気の優しい二人はしょうがないな、とあっさり許してくれた。

「ホント、バイト雪山嫌いだよなあ。」

「雪山ア？あんな寒いだけの場所絶対に行かん!!!!」

「でも、訓練場で昨日女の子たち、雪山に行くっていったのに。」

「マジか!?!?!?!死にたい。」

つくづく女の子に縁がないことを思い知らされたバイト一行は

気球に乗り込んだ。

気球には、背の低いおじいさんが乗っている。

いつものことだ。

そして、おじいさんは、慣れた手つきで気球を操作する。

これまたいつものこと。

膨らんだ気球はゆっくりと空へあがっていった。

森丘へは、近い。

第一章その二（後書き）

ありがとうございました。

第一章その三(前書き)

毎度短くてすいません。

あと、バトルシーンは苦手とか言うレベルではないので期待しないでください。

第一章その三

森丘に着いたころには空も晴れ上がっていた。

近くには浅い川が流れていて太陽の光が

反射してキラキラと輝いて見える。

あまりにキレイだったので見とれてしまった。

「おい。川なんか見てないで行くぞ。」

ケイの言葉で意識は川から離れた。

今日は狩りに来ているのだ。

バイトは、よし！と気合をいれ一行は歩き出した。

歩いているとあるものに目にとまった

「キノコだー!!」

「キノコ？それがどうし……っておお！特選キノコじゃん!!」

カイトは飛び跳ねて喜んだ。

「コレ、きつと高いぞ！」

「よし！さっそく・・・」

「オイ！お前ら！！後ろ！！」

何事だ と振り返ると、大きな猪がこっちに突進してくるではないか。

「うおア！？」

受身なんて考えず力任せに二人は左右に飛び退いた。

間一髪大猪の突進をかわした。

大猪は勢い余って木に激突した。

ぶつかられた木はその衝撃に耐え切れずボツキリと折れてしまった。

アレを喰らえば生きてはいられないだろう。

みながそう思った。

「行くぞ。」

バイトが言うと、二人はコクリとうなずいた。

そして武器を構えた。

第一章その三（後書き）

短いですよね。

ほんとすいません

読んでくれて

ありがとうございます

第一章その四（前書き）

バトルシーンに期待しないでください。
マジで。

第一章その四

カイトが片手剣、ケイが弓、バイトが双剣だ。

属性は全員ナシ のはずだが、

バイトの双剣は無属性で作ってもらったのに

何度かモンスターがしびれたことがある。

若干の麻痺属性だ。

バイトたちの中では「職人のミスだろう。」

とそういうことになっている。

まあいずれにせよ属性が付いたことはラッキーだった。

「よし・・・動くなよ・・・そのままのまま・・・」

ケイが弓を構えながら小さくつぶやく。

ケイだけはドスファンゴに気付かれていなかった。

あれだけの大声を出して気付かないドスファンゴもドスファンゴだが。

「今。」

と静かに矢を放つ。

・・がドスファンゴは少し横に動いてしまった。

矢は目標物をかすめて飛んでいく。

「気付かれたっ！」

そう思ったときにはドスファンゴは地面を蹴り

木をも倒してしまったださっきのアレを浴びせようとしている。

ケイは動けなかった。

何メートルも吹っ飛ぶ自分を想像してしまっただのだ。

しかし、ケイが吹っ飛ぶことはなかった

地面をすごいスピードで転がることもなかった。

「させるか!!」

バイトとカイトがドスファンゴの横腹に渾身のタックルと
各々の武器での突きを叩き込んだのだ。

「ゲオオオオオン!!!」

ドスファンゴはバランスを崩し

ザザーッ

と倒れこんだ。

赤黒い血がドクドクと流れだす。

ドスファンゴはうなりながらも立ち上がり

バイトたちとは逆の方向に走り出した。

「逃げる気だぞ!! アイツ!!」

正気に返ったケイが言う

「あつちが川じゃねえか!! 川の間は狩猟禁止だ!!」

あわてる二人

しかし、ドスファンゴが川に入った瞬間

何かに足を引っ張られるように

川に頭から突っ込んで逆さまになってしまった。

「「は？」」

二人は何が起こったか分からなかった。

「落とし穴だ。」

バイトはすかさず言った。

「森丘に来たとき最初に仕掛けておいたんだ

いつもモンスターが逃げるときはこの川を渡ることが多いからさあ。

それに狩猟禁止エリアに逃げられたら困るしな。

んで、落ちたら穴に水が入ってきて窒息死だ。」

「お前・・・なんだ・・・その・・・エグイな。」

そう言いつつもカイトはホッとしたようにため息をついた。

三人の緊張が解けた。

すると、森のほうから耳を覆いたくなるような咆哮が聞こえてきた。

第一章その四（後書き）

読んでくれて

ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2369i/>

強肉弱食

2010年10月10日19時11分発行